

はらだ たけのり
有限会社原田ファーム 代表取締役 原田 武徳 (山口県山口市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差 (地域の平均単収)
みなちから オオナリ	6.8ha	743kg/10a	193kg/10a (550kg/10a) [※] <small>※ 作柄調整後の地域の平均単収</small>



【経営概況】

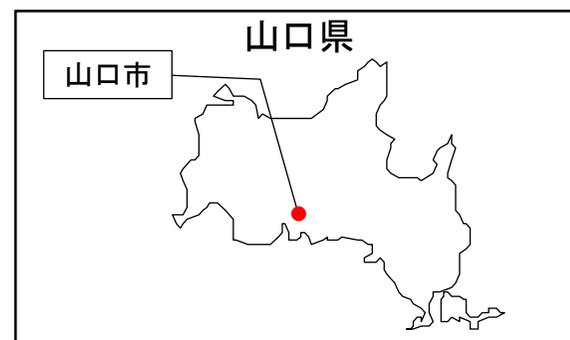
- 平成18年1月法人設立
- 役員2名(本人、父)、アルバイト1名、パート若干名

【作付品目】

- 主食用米 (恋の予感、にこまる) 4.5ha
- 飼料用米 6.8ha ○ 小麦 7.8ha
- 野菜 0.06ha

【取組のきっかけ】

- 実需者である秋川牧園 (以下「実需者」) と飼料用米生産者の耕畜連携 (資源循環型サイクル) を基本とした取組に共感するとともに、稲作作業の省力化、経営の安定化を図るため、平成22年産から飼料用米に取り組む。



【取組概要】

- 自家育苗において、密苗、タイマー付きスプリンクラーの散水により省力化を図るとともに、45株/坪の疎植とすることで苗箱数を12枚/10a程度に抑えコスト低減を図っている。
- 土づくり期 (11月) に、実需者から提供を受けた鶏ふん堆肥を自社の堆肥場で半年以上熟成し、散布 (1,000kg/10a)。基肥は、田植時に一発肥料「アシストコート048」を田植同時可変側条施肥。(令和7年産からザルビオ (栽培管理支援システム) を導入し、「可変施肥」が可能となった。) また、令和7年産から高温対策 (窒素不足対策) として「エヌキャッチ (バイオ資材)」を試験導入し、追肥作業の省力化を図った。
- 病害虫防除は、育苗箱施用のほか、出穂前に「オーケストラムダモンカットア-」、「ビ-ムイトザル」、「トボンア-」を無人ヘリで散布。
- 雑草防除は、原則、田植と同時に一発処理除草剤「ベッカク」を散布するのみとし、雑草発生量の著しい圃場 (新規作付け圃場等) に限って中後期除草剤「ロイヤント乳剤」をブームスプレーヤにて散布。
- 乾燥・調製は、自らの所有施設で行っており、刈取りを遅らせ立毛乾燥することによりコスト低減を図っている。
- 令和3年からスマート農業機械 (自動操舵) の田植機やトラクターを導入し、作業の省力化や圃場の大区画化を進めている。
- 栽培期間中、実需者主催の全生産者現地巡回視察 (年2回) を活用し、多収穫、コスト低減等の生産技術の向上を図っている。